



創建当時と変わらず、一体感を持って

国道49号ができる以前は、社務所も公園側であり、公園と開成山大神宮はつながっているイメージだったと思います。五十鈴湖も、伊勢神宮の前を流れる五十鈴川から名付けられたものですし、昔と変わらぬ市民の憩いの場として、公園と神社は一体感を感じる存在です。

にぎわいのある場所になってほしい

魅力あるお店があったり、週末にはイベントが開催されたりと、市内外の方が多く訪れ、にぎわいを感じられる場所になってほしいです。境内でも定期的に音楽イベントを開催しているので、開成山公園とも連携しながら、一緒に郡山を盛り上げていきたいですね。

開成山公園の歴史とともに

開成山公園の周りには、数多くの歴史ある建物や神社、食べ物などが現代まで残されています。



開成館

1874年に区会所(郡役所の前身)として建築。安積開拓を進める県の機関が置かれ、今は民俗資料館として使用。

開成山大神宮

安積開拓時の1876年に創建。正式な伊勢神宮の分霊が全国で唯一奉遷されています。



源平だんご

だんご店として創業以来、開成山の花見だんごとして100年以上親しまれています。



日本最古の染井吉野

樹木医学会で日本最古と認められ、その樹齢は150年以上！



市民の皆さんと行政、企業が連携をしながら、郡山市を盛り上げるセントラルパークとして、これらの活躍が楽しめる開成山公園。市だけではなく福島県を代表するシンボルとして、多くの方に愛され続けることでしょう。

市のシンボルとして これまでもこれからも



バラ園

1972年に開園。3,000㎡の園内には約400種、約800本のバラが毎年春と秋に咲き誇り、開園中は多くの方が訪れます。



ラッキー公園 in こおりやまし

2022年に福島県と(株)ポケモンの連携協定により、ふくしま応援ポケモン「ラッキー」をモチーフにしたエリアが誕生。



イベント会場としても活用(B-1グランプリの様子)

広い敷地を生かし、イベント会場としても活用されています。2014年に開催されたB-1グランプリでは、2日間で延べ約45万人が来場しました。



映画の撮影地にもなるなど、全国的にも有名な桜の名所



開成山公園

福島県のほぼ中央に位置する開成山公園。市の発展とともに役割が変わりつつも、昔と変わらず多くの方に親しまれ続けています。

昔も今も郡山の にぎわいの中心に



開成山公園は、上ノ池(五十鈴湖)と開成沼(現在の運動場)を中心に整備されたのが原形です。開成社などにより未来を想って、池の周りには約3千900本の桜が植えられました。その美しさは全国でも有名となり、1924年発行の日本初の旅行雑誌「旅」にも、桜の名所として掲載されたほどでした。それらの桜の一部は今も華やかに咲き誇り、春の訪れと共に私たちを魅了し続けています。

150年前に開拓が始まり、1882年に安積疏水が完成。明治後期からは開成山競馬場として人気を博します。昭和になると野球場や陸上競技場などの整備も進められ、2006年には優れた歴史的・文化的資源を有する「日本の歴史公園100選」にも選ばれました。

近年では、日本遺産「一本の水路」の構成文化財となり、また、園内の染井吉野が日本最古として学術的に認められるなど、その歴史的価値も高まっています。郡山発展の礎の地であるこの場所は、今も変わらず親しまれ、郡山を象徴する存在です。



五十鈴湖(1958年)

灌漑用として造られ、昭和中期までは、五十鈴湖の水面に映える安達太良山を見ることができました。(写真提供 ㈱正円堂)



開成山競馬場(1955年頃)

1956年に廃止となるまで、開催するごとに数万人の観客が訪れるなど、日本屈指の盛り上がりを見せたと言われています。



花見の様子(大正時代)

植樹を行った開成社の資料には「次世代の人々の心を和ませる桜になるだろう」といった、未来を想って植えたという趣旨の記録が残っています。